

■手すりの等分布荷重試験とは

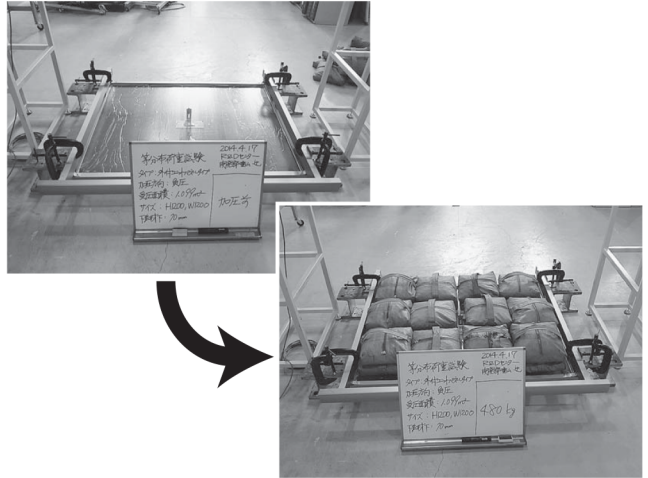
手すりは、建物外観の意匠価値を高めるだけでなく、外装建材として、バルコニーを風雨から守っており、厳しい環境にさらされています。井上商事では、風を全面に受ける、パネルタイプ・ルーバータイプ・ガラスタイプの等分布荷重試験を行い、自主安全基準に基づいた強度の確認を行っております。

■インフェイス ガラス IG



【試験結果】  
最大荷重4376N/m<sup>2</sup>加圧時に試験体に有害な変形は見られませんでした。

■外付けユニット パネルタイプ OP



【試験結果】  
最大荷重4732N/m<sup>2</sup>加圧時に試験体に有害な変形は見られませんでした。

■パネルタイプ P



【試験結果】  
最大荷重6415N/m<sup>2</sup>加圧時に試験体に有害な変形は見られませんでした。

■ラティスルーバー LL



【試験結果】  
最大荷重4163N/m<sup>2</sup>加圧時に試験体に有害な変形は見られませんでした。

(注意) ガラスの仕様確認につきましては、ガラスメーカーにお問合せ下さい

アルミ手すりユニット 横格子手すりの安全対策

安全・確実な「横格子間隔」を、実際に子供が登る独自の試験で確認しました。

安全な横格子の間隔(6歳以下の子供が足をかけて上がれない間隔)を確認するため、井上商事では、2~6歳の子供に横格子手すりを登ってもらい、登れるかどうかの試験を行いました。

(○:登れた ×:登れなかった)

その結果、格子間隔15mmでは、5人全員登ることができました。格子間隔10mmでは、5人中2人登ることができました。格子間隔8mmでは、1人も登ることができませんでした。

当社ではこの試験を踏まえ、横格子の間隔8mmを自主基準とします。

格子間隔15mm	
年齢	結果
2	○
3	○
4	○
5	○
6	○

格子間隔10mm	
年齢	結果
2	×
3	×
4	○
5	○
6	×

格子間隔8mm	
年齢	結果
2	○
3	○
4	×
5	×
6	×

